



認定こども園 伊勢ヶ浜保育園

保育によって地域の営みを支える伊勢ヶ浜保育園。保育を担う次世代育成に少しでもつながればと、市内中学校から職場体験を受け入れています。大王谷学園中等部の職場体験(14歳のよのなか挑戦)では4日間に渡る様々な活動を通じて、園児一人ひとりの可能性を引き出す保育の大切さを生徒たちに伝えています。

職場体験で伝える魅力

発達チェックを行い、それをもとに園児への接し方を考えて実践。

中学生に伝えなかった園の価値と3つのポイント

伊勢ヶ浜保育園は、異年齢の6

クラス編成で保育を行っていきま
す。職場体験の前に、受け入れ先
となる事業所を対象として開かれ
た研修会では、中学生に伝えたい
園の価値を「保護者の就労支援に
よって、間接的に町の営みを支え
ていること」と整理。その価値と
ともに、さらに中学生に伝えたい
3つのポイントを挙げました。

① 幼児教育のプロとしての責任と
プライド

② 福祉の仕事に携わる喜び

③ 全ての人を支える笑顔の力

以上を念頭に置いて考えた4日
間のプログラムを、中学生が各ク
ラスに分かれて実践しました。

発達評価票を活用して
園児の発達をチェック

園では普段から「発達評価票」
を活用しています。筑波大学の研
究室が考案したもので、「手を洗っ



て拭く」などの生活技術、「友達
とおもちゃの貸し借りをする」な
どの対人技術をはじめ、園児の発
達状況を個別に観察して評価する
ためのチェックシートです。

中学生は前半の2日間、遊びや
給食のサポートなどを通じて園児
たちとふれあいました。そして3
日目、それまでの観察をもとに、
自分の担当園児について発達評価
票でチェック。日頃、園ではこれ
をもとに、園児一人ひとりに合っ
た保育計画を立て、実行してくら
また評価し、計画を改善する……と
いうPDCAサイクルが実践され
ていることも教わりました。

自分で考えた保育計画を
助言も受けて最終日に実践

中学生には毎日宿題が出され、
3日目の宿題は「発達チェックを
ふまえて、担当園児にどのように
接するかを考える」というもの。
これをもとに、4日目は先生から

助言を受けながらも、自分の計画
に従って保育を実践しました。
プロとしての責任と
エビデンスの重要性を理解

ある生徒は発達チェックによっ
て、自身が担当する園児は「自分
で何か1つのことをするのが苦
手」と気づきました。そこで、何
かをやると要求された時も、簡
単なことであれば「自分でできる
よね?」と促すことにしました。
保育者はただ子どもと遊んだりす
るだけでなく、より良い保育をす
るプロとしての責任があることを
知り、そこにはエビデンスが必要



であることも理解できたのです。
また別の生徒は「先生方から『君
の笑顔、いいね』『周りをちゃん
と見ているね』と声をかけていた
だけ、自信が持てました。どれほ
ど笑顔が大切かを学びました」と
綴りました。園児の育ちをサポート
しながら、自分自身も大きく成
長することができました。

職場体験プログラム				
	1日目 11/26(火)	2日目 11/27(水)	3日目 11/28(木)	4日目 11/29(金)
時間	08:00	09:00	10:00	11:00
	オリエンテーション	教育保育計画に従い保育実践	教育保育計画に従い保育実践し、担当児童の発達状態の確認	宿題の発表
	12:00	13:00	14:00	15:00
	給食指導 午睡介助	給食指導 午睡介助	給食指導 午睡介助	給食指導 午睡介助
	16:00	17:00	終了	終了
	休憩	休憩	休憩	休憩
	14:00	15:00	16:00	17:00
	評価ツールの説明	保育教諭とのQ&A	発達チェック実施	4日間の振り返り
	教育保育計画に従い保育実践	教育保育計画に従い保育実践	教育保育計画に従い保育実践	自分の計画に従い保育実践
	1日の振り返り	1日の振り返り	1日の振り返り	1日の振り返り
	17:00	終了	終了	終了
	終了	終了	終了	終了
宿題	保育教諭への質問内容	担当児童決定	発達チェックをふまえて担当児童にどのように接するかを考える	

事業所が感じた
受入れメリット

業務を振り返ることで
質の向上につながった

今回の職場体験では、まず
初日のオリエンテーションで
「保育の意義」や「笑顔・コ
ミュニケーションの大切さ」
を説きました。また、若手
の保育教諭に質問する時間
を設け、この仕事を身近に
感じてもらえるようにも配
慮しました。そのうえで、
4日間でPDCAの一部を体
験できるように工夫。中
学生にわかりやすく伝えるた
めには、まず我々が自分た
ちの業務について深く理解す
る必要があります。プログラ
ムを考える中で、それぞ
れの業務の振り返りが自然
に生まれ、質の向上にもつ
ながりました。

福祉従事者を増やすという
将来的なメリットも

現在、日本の多くの場所
で保育士不足が叫ばれてい
ますが、日にも例外ではあ
りません。職場体験で福祉
の仕事の大切さとやりがい
が伝われば、将来の従事者
養成につながるのではと期
待しています。若手教諭と
の対話の場面では、「保育
士になってよかったと思う
ことは?」など、やりがい
を理解しようとする質問も
多く出ていました。中学生
が日頃の大人たちとつなが
ることで、この町への愛着
が増し、将来地元で活躍す
る大人になってくれること
を望んでいます。

(園長 青木 雅矢さん)